

追悼 元会長、元副会長を偲んで

この10年で、歴代会長・副会長を務められた岸朝子さん、中川恭子さん、西村薫子さん、小林トミ子さん、浦昌子さんが逝去されました。香友会創成期を支えてくださった皆さんを偲び、ゆかりの方々に数々の思い出のお話を伺いました。

岸朝子さん〔第4代会長（在任期間…平成3年～9年）〕

女子栄養学園本科昭和17年卒業、平成27年ご逝去

岸朝子さんの思い出

金谷滋子 短大昭和31年卒業

卒業後、母校の集団給食研究室助手として勤務後、香川県・兵庫県にて栄養指導、料理教室の講師を務める。
現在は、公益社団法人栄養医学協会 副理事長、元香友会副会長

出会いは「もみ殻ですか？」の一言

岸朝子さんは私の12年先輩です。

初めてお会いしたのは、時期は忘れましたが、岸さんが卵の栄養について話をされていた時です。「昔は卵が貴重品だったのでお遣い物にもしたのよ。割れないように箱にほら、あれを詰めて…」。その「あれ」が出てこない岸さんに、私は思わず「もみ殻？」と助け船を出しました。この一言で、昔のことも知っている重宝な人材と思われたのでしょうか。「そうそれ、あなたちよつと隣に来て」となり、そこから、30年近い岸さんとのお付き合いが始まりました。

初めて仕事を願ったのは昭和

63年、私が理事をしていた兵庫県食生活改善協会での講演でした。それから、本にするからと和え物

100点のレシピと写真を頼まれたり一緒に講演したりと仕事上での交流が続きました。講演会でいつも岸さんに言われたのは、「あなたが私を紹介する時はまず『女子栄養大学の先輩です』と言ってちょうだい、私はあなたを『女子栄養大学の後輩です』と紹介しますから」ということ。私はそれを聞き、岸さんの栄大に対する深い思いと綾先生への敬愛の念を感じたものです。

プライベートでも思い出は尽きませんある旅行会社が平成16年に企画し

た「岸朝子さんと行くオーストラリアツアー」をきっかけに、岸さんとプライベートでも仲良くさせていただけでなくになりました。同じく栄大卒業生の小林泰子さん、菅居千佳子さんの4人で日本各地に出かけ、行く先々の名物や料理を楽しみました。瀬戸内寂聴さんや石井好子さんとお目にかかったり、有名になる前の「草喰なかひがし」で会食したりと、岸さんにあずかった恩恵は数えきれません。岸さんの呼びかけで始まった、料理や栄養、出版界で活躍する猪年生まれ女性の集まり「猪猪女（いいおんな）の会」や、岸さんが繋いでくださった道場六三郎さんとのご縁は今も続いています。

旅先での岸さんは、土産物店で土地の話を聞いたり道案内をしてもらったりすると、必ずそこで買い物をしていました。「土地の人の話には、その土地の歴史、そこに住む人の思いが積み重なっている。その思いを真摯に受け止めなくてはならない」とよく話されていましたから、旅先で丁寧に対応してくれたことに對してだけでなく、感謝の気持ちをそうして表していたのですね。大雑把なようでいて、そういう細やかな

心遣いをなさる方でした。

私も何度も一緒に宮城県石巻市は、「世界の牡蠣王」と呼ばれた岸さんのお父様ゆかりの地で、岸さんは観光大使として数々の行事に参加されました。伊達家主催の「茶摘みイベント」で、伊達家18代御当主や石巻市長も見えになる中、北上川の川霧に包まれて新茶を摘んだのは今も心に残る素敵な思い出です。

岸さんとの出会いは私の宝物

岸さんからの仕事は無茶ぶりが多く、講演会場に行ってから「話が違ふ」と慌てることもたびたびでした。でもそのおかげで私の話す力が鍛えられた、と今では感謝しています。お行儀を直されたこともあり（笑）、私の何分の一かは岸さんによって育てられた、と言ってもいいかもしれ



岸朝子さん（右側）と筆者



香友会館竣工祝賀会にて（平成12年6月）

ません。
岸さんが亡くなって6年がたちますが、今でも、岸さんのご自宅近く

中川恭子さん（第5代会長（在任期間…平成9年～12年））

女子栄養学園本科昭和19年、高等科20年、短大29年卒業（令和元年ご逝去）

中川恭子会長との出会い

安原安代

学部昭和42年卒業

卒業後、母校の助手、助手、専任講師、助教授、教授を経て平成27年定年退職。在職時は研究室委員長、学部長に就任。退職後は自由人・専任家事引受人。元香友会副会長

親しみをもって、「恭子先生」と書かせていただきます。会長は私がこの世に誕生した時はすでに女学校を卒業され、本学園本科も卒業され高等科にご在籍であったと思います。先生との出会いは、学部2年生の時、駒込校舎での調理実習で、西洋料理のレジエント深沢侑二先生の

を車で通ると、巣鴨駅からタクシードよくお迎えに行ったことを思い出し、胸が熱くなります。

愛弟子と伺い、西洋料理の基礎をお教えたいただきました。昔、綾先生のご研究のお手伝いをして化学実験のご経験もされたと伺い、実験も調理もなさる先生として私の記憶に残りました。

香友会活動の一環として「牛乳及び胚芽精米を使った料理講習会」が全国展開されるようになった頃、その拠点が学園の別館から更に駒込駅前ビル5階への移転、そして坂戸校舎内校地に「香川綾記念教育交流センター（香友会館）」の設計から竣工に至る経過の中で、再び恭子先生に巡り合いました。私はその頃40歳代になっていたと思いますが、はじめの頃は、明るい話題から突然、とても厳しい会話に展開されるので、猫のように静観しておりました。鋭い発言でも悪意はないが、余りにも

率直すぎるのだと理解できるようになりました。恭子先生は、調理実習の大先輩という印象がぬぐえず、駒込時代は師の影を踏まずの気分でした。

記録によれば、平成元年に法人設立準備委員会を設置され、準備を重ねられていましたが、望む法人組織になかなか至らず、法人化として先ず株式会社YSK（豊かな食を拓く会）を設立。平成9年6月の総会で

中川恭子会長が「香友会将来計画検討委員会」を立ちあげ、平成10年1月に中川会長と吉田企世子副会長は「校地内に香友会館を建設することとは可能」という理事長発言をいただき、7月の総会を契機として、会長は「香友会館建設実行委員会（米澤亀代子実行委員長）」を発足させ、具体化に取り組みました。11月には

地鎮祭、12年6月には竣工祝賀会の運びとなりました。私はこの実行委員会に加わり、中川会長の姿勢を感じました。会長は当時学園の評議員でもありましたが、会議の進行にはあまり口を出さず、議論の深まりを待つようでありました。きつと、コロナ禍の今、天国から香友会館が卒業生・在学生に有効に利用されるように見守っておられると思います。

その後、お目にかかるチャンスは失われましたが、平成25年頃から、毎年、お庭にある「すだち」が採れたと沢山、坂戸の研究室にお送りくださいました。調理担当者で、薄い皮で、程よき酸味とたっぷりの果汁のすだちを、堪能させていただきました。私は芯の強い中川会長を偲びつつ、感謝の気持ちに浸りました。

西村薫子さん（副会長（在任期間…昭和54年～平成3年））

女子栄養学園本科昭和19年、学部昭和40年卒業、令和2年ご逝去

西村先生との語らい

宮本佳代子

学部昭和46年卒業、大学院修士昭和51年修了
藤沢市民病院、自治医科大学附属病院で傷病者の栄養・食事管理に携わる。女子栄養大学、千葉県立保健医療大学、聖徳大学で教員として後輩の育成に携わる。現在は金沢学院大学特任教授

西村先生はエレガントという言葉がぴったりのお奇麗でおしゃれでした。そのお姿に似合わず出てくる言

葉は「辛口」。じつとしてはいられず「椅子」は不要。先生とご一緒に仕事をした時は、打ち合わせをして

いると話が終わらないうちに行動が始まるので、私達は打ち合わせの時は「中腰」。「今日は先生に負けないぞー」と言ったものです。

バー K A O R U の思い出

私は、自治医科大学附属病院で昭和の末に6年間ほどご一緒にお仕事をさせて頂きました。先生の管理栄養士としての姿勢は「質の高い食事の提供」「患者様に寄り添う栄養食事指導」、一貫して「患者様のために」というものでした。この信念を貫くためにご自分に厳しく、私達にも仕事に厳しい姿勢で臨むことを求めましたが、一方で、私達に温かい気配りをされていました。先生は自治医大校内にある住宅にお住まいで、この住宅は一軒ごとに玄関ドアの色が違い、先生のお宅のドア



西村薫子さん（右側）と筆者

の色はピンクで夜になって玄関灯がともると……。私達は先生のお家で手作り料理をご馳走になり、「今日は、バー K A O R U ね」と言ってお集まり、そのひと時は笑いが絶えませんでした。お料理の話をする時は上田フサ先生のお名前が出てきました。

そう、綾先生のお話も。「綾先生は、いいじゃないか失敗したって。その分長く生きてやり直せばいいんだよ、とおっしゃっていたわ」。また、こんなお話をされました。助手時代、調理実習室のお掃除をしていたの。綾先生が見えて「あなた、何しているの」とおっしゃったの。もう、頭にきて「見ればわかるでしょ」と言いたかったの。今になると綾先生のお言葉がよくわかるわ。今、先生のお声が聞こえてきます「あなた、何しているの」。

「仕方が無い」という言葉は嫌いよ

忘れられないのは東京大空襲の時の先生のお話です。随分前の話なので違っている箇所もあるかと思いますが。戦争中、市川の軍需工場で栄養士として働いておられ、東京大空襲の日、先生は市川から歩いて自宅へ。「焼け焦げた遺体を飛び越えるように歩いたわ。陸橋から見下ろした川は遺体だらけ」。大正14年のお生まれなので20歳ではなかったかと思えます。

先生が逝かれたのは「令和2年8月6日」コロナ禍の中。私が先生に最後にお目にかかったのはこの年の3月末。以来はコロナの流行でお会いできなくなり、妹様から「穏やかに眠るように亡くなりました」と伺いました。青春は「戦争」、人生の最後は「コロナ禍」。先生は「どんな時でも、仕方がございませんよね！という言葉は嫌いよ」とお

しゃっていました。現実を真摯に受け止め、そこに人生の意味を見い出していたのだと思います。今の私は「仕方がないわよね」から抜け出せないでいます。右往左往の私を眺めながら高らかなお声で笑っているのが聞こえています。「仕方がないのよ」から抜け出せたわ」と言えるようになったら、お迎えにいらしてください。それまで頑張ります。

小林トミ子さん（副会長（在任期間：昭和60年～平成3年））

女子栄養学園本科昭和17年、高等科19年卒業、平成25年ご逝去

小林トミ子先生の想い出と趣味の音楽

豊満美峰子

学部昭和63年卒業、大学院修士平成2年修了
女子栄養大学助教、杉野服飾大学講師・准教授、女子栄養大学短期大学部准教授を経て、現在は女子栄養大学短期大学部教授、専門は調理学。家庭料理技能検定にも関わり健康で美味しい料理作りをどう伝えるか研究中

学園と共に歩んでこられたトミ先生。明るい前向きな先生でした。諸先輩方も様々な想い出をお持ちのことと思います。筆者は先生の退職前後にご指導を受け、ご趣味でも一緒に書いたので、そのあたりの思い出を書いてみます。

先生は、短大や二部の授業、家庭料理技能検定の運営、専門学校部長としてのお仕事を抱えられ、大変忙しくしていらっしゃいましたが、退職後のプランもいろいろとお考えになっており「ダンスや歌を習いたい

し、ミュージカルもやってみたい。外国で暮らしてみたいし、フランス料理も改めて勉強してみたい」とおっしゃっていました。ほとんどを実行され、その行動力には感嘆しきりです。

先生は歌がお好きで、お祝い事等の場で時々歌ってくださいました。ラテン気質の先生の十八番はラヴィアンローズとオソレミオです。筆者の結婚式ではオソレミオを熱唱され、感激したことをよく覚えています。ご自分のお声を「だみ声なのよ」



と評されていましたが、シャンソンを歌うにはぴったりで、明るいだけでなく哀愁漂う歌もよく表現されていました。先生とは何回か弦楽四重奏の伴奏で一緒に歌いました。音程が正確で合わせやすい歌い手さんでした。愛唱歌をちりばめたCDも録音され、おしゃれな先生のお写真がプリントされています。先生の歌の師匠は、モモちゃんといってミュージカルを全てひとりで作る多才な音楽家です。築地本願寺で行われた公演ではトミ先生が狂った大学教授の役を演じ、拍手喝采でした。演じているような、先生そのもののような。モモちゃんが出演者に合わせて作った作品は歌ありダンスありで、70歳を超えたとは思えないパワフルなステージに、招かれた我々は涙を流し

て笑い感動しました。モモちゃんとはその後もいろいろな場で共演されたり、ご自宅でパーティーを開いたり親しくされていました。先生のご自宅を訪ねると、いつもラジカセからクラシック音楽が流れていて、生活の中に音楽が欠かせないものになっていらっしやいました。口癖のように「お料理と音楽はいいよ。自分も周りも豊かな気持ちになる。」と言っておられました。

音楽の他にも、ニュージーランドに長期滞在されたり、フランスに食の勉強の旅行をされたり、充実した日々を過ごされました。しかし活動的な先生も晩年には歩けなくなられ、お辛かったことでしょう。亡くなられる半年ほど前に、長年の同士である相川方先生とお二人で駒込校舎にいらっしやったことがあります。お二人とも車椅子の上で「今日が今生の別れになるかもね」とおっしゃってお名残惜しそうにされていたのが印象的でしたが、まさにその通りになってしまったのでした。本学のために尽くし、さらには仕事を楽しんだ先生の精神は私たちが引き継ぎ、学園の未来にむけて頑張りたいと思います。

浦 昌子さん (副会長 (在任期間…平成元年～9年))

女子栄養学園本科昭和15年、高等科昭和20年卒業、平成24年ご逝去

関西の支部活動の礎

※香友会の過去の資料や、浦昌子さんをご存知の方にお話を伺いまとめたものです。

浦昌子さんの香友会での大きなご功績のひとつは、大阪支部の立ち上げにはじまり、関西支部として大阪・京都・兵庫・滋賀・奈良・和歌山合同の支部活動に尽力されたことです。

昭和33年頃、同窓会の機関誌を通じて「都道府県別に卒業生が集まり、食生活改善のために一層の努力ができるように」と、各地方の卒業生に連絡を呼びかけたのが、支部の始まりです。食物や栄養についての学問が日々

進歩する中、常に新しい知識を得て勉強することの必要性から「全国各地で卒業生同士が交流しあい、母校との連携を密にして、新たな情報を得たい」との声が年々高まり始めたことがそのきっかけでした。その際に、大阪でお世話係としてお声がかかったのが、香友会創設の頃から香川綾先生の信頼を得ていた浦さんでした。

当初は綾先生が、地方講演においてになる機会を利用して、その地方の香友会会員に呼びかけ、集まりを持っていました。大阪支部の初めての集まりは、出席者がわずか10名でした。すっかり自信を失ったという

浦さんですが、綾先生が関西においてになる機会を利用して連絡可能な関西地区の会員で集まり、熱心な同窓生の協力を得ながら、地道に活動を続けられ、昭和53年頃には、支部活動の基礎ができていたようです。大阪の中心的存在として支部活動を盛り立てられ、ふくよかで穏やかな性格から「浦さんのお声掛けならば」と参集した同窓生も多いと聞きます。

浦さんが礎を築かれた関西支部は、現在も近畿ブロックとしてその活動を続けています。

その後、平成元年に支部長会から1名を香友会副会長に選出することが決定し、長く支部活動に尽力されてきた浦さんが副会長に就任され、平成9年まで務められました。



昭和57年関西支部会にて (後列右から2番目が浦さん)